

【別紙様式3】

再評価実施事業調書

番号	2	事業名	社会資本整備総合交付金(道路事業)		路線又は箇所名等		主要地方道成東酒々井線 八街バイパス		
事業所管課		道路整備課		事業主体		千葉県			
事業化年度	平成5年度	用地着手年度	平成7年度	工事着手年度	平成25年度	工事終了(認可)年度	令和5年度	再評価の理由	再々評価
費用便益比 B/C	1.2 (16.5)	総費用	72億円 (4億円)	総便益	87億円 (65億円)	基準年	令和元年度	供用開始年度	令和6年度

※上段：全体事業 下段（ ）：残事業

【事業概要】

主要地方道成東酒々井線なるとしすいは、県北部ほぼ中央やちまたに位置する八街市を縦断し、八街市街地を中心にして国道409号や当該路線を含む幹線道路など8路線が、放射状に形成されていることから、慢性的な交通混雑が発生しており、地域の経済発展や住民生活に支障をきたしている。

各路線とも沿線に住居等が密集しており、現道幅幅が困難となっていることから、バイパス整備により、交通混雑の緩和を図る。

- ・総事業費：44億円
- ・事業延長：L=1.7km
- ・事業期間：平成5年度～令和5年度

【事業の進捗状況】(令和元年度末見込み)

	全体計画(億円)	投資事業費(億円)	残事業費(億円)	進捗率(%)
全体	44	40	4	91%

【社会経済情勢等】

・主要地方道成東酒々井線(八街バイパス)における並行現道の状況

- ①八街十字路や五区交差点が主要渋滞箇所にて特定されている。
- ②死傷事故率は92.3件/億台キロであり、県平均の死傷事故率49.0件/億台キロよりも高くなっている。
- ③通学路に指定されているが、歩道が狭く交通量も多いため危険な状況である。

・事業の投資効果

並行現道の交通が八街バイパスに転換することにより、渋滞が緩和されるとともに、走行時間の短縮や走行経費の減少、交通事故の減少等の効果が期待される。

【対応方針(案)】

継続

主要地方道成東酒々井線 八街バイパスは、全体事業の費用便益(B/C)が1.2(残事業費16.5)であり、事業の投資効果が見込まれる。

整備効果として、交通の分散による走行時間短縮及び渋滞緩和、緊急車両における医療機関への搬送時間の短縮、現道の交通量減少に伴う安全性の向上が期待される。用地買収が概ね完了しており、供用目標を公表し着実に事業を推進していることから、事業を継続し効果の早期発現を目指す。

【別紙様式 4】

事業概要図					
番号	2	事業名	社会資本整備総合交付金(道路事業)	路線又は箇所名等	主要地方道成東酒々井線 八街バイパス
位置図			標準断面図		
平面図					

【別紙様式5】

再々評価事業に関する調書

番 号	2	事 業 名	社会資本整備総合 交付金(道路事業)	路線又は箇所名等	主要地方道成東酒々井線 八街バイパス
事業化年度	平成5年度	用地着手年度	平成7年度	工事着手年度	平成25年度
【再評価の概要】					
再評価実施年度 (基準年)	平成26年度	供用開始年度	令和6年度	対応方針	継続
B/C	1.2 (11.2)	総費用	56億円 (6億円)	総便益	69億円 (69億円)
(※上段：全体事業 下段：()：残事業) 再評価時の委員会の意見及び当時の状況 継続することが妥当である。					
再評価時の進捗状況及び再評価時想定5年後の進捗状況					
	計 画	進捗状況(H26)	5年後の想定進捗状況		
全体事業費	44億円	37.6億円(85.4%)	42億円(95.4%)		
うち用地・補償費	17.9億円	16.5億円(92.1%)	17.9億円(100%)		
うち工事費	26.1億円	20.2億円(77.3%)	24.9億円(95.4%)		
【再々評価の概要】					
再評価実施年度 (基準年)	令和元年度	供用開始年度	令和6年度	対応方針	継続
B/C	1.2 (16.5)	総費用	72億円 (4億円)	総便益	87億円 (65億円)
※上段：全体事業費 下段()：残事業費 現在の進捗状況					
	計 画	進捗状況 (R01 末見込み)			
全体事業費	44億円	40億円(90.5%)			
うち用地・補償費	17.9億円	17.1億円(95.5%)			
うち工事費	26.1億円	22.9億円(87.7%)			
再評価後の経過及び処理状況	<ul style="list-style-type: none"> ・平成26年度 再評価(継続が妥当である) ・平成29年3月 1工区の暫定2車線開通 ・工事、用地交渉を継続実施 				